

筆山

第31号 / 2001年12月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/西岡 恒憲 (41回)

〒106-0032 東京都港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201

E-mail : tsuruwa@mxq.mesh.ne.jp 関東支部ホームページ : <http://www2u.biglobe.ne.jp/~tsuruwa/kantosisbu.htm>



ニューヨークの悪夢

私のトラウマ

山中 和正 (24回生)

二一年9月11日、あの米国同時テロの日、私はスイス、アルプスの雄峰、マッターホルンの麓の町、ツエルマットにいた。夕刻、夕日を背にしてシルエットになりつつある山を眺めながら、ホテルのテレビをつけた。途端に、ニューヨークのワールドトレードセンターに激突する大型旅客機の映像が映し出された。はじめは、よく出来たCG(コンピュータ・グラフィック)で作った映画かと思ったが、それが実写のニュース映像であることがわかるのには時間が掛からなかった。私は夕食に行くのも忘れて震えながら、数時間テレビに釘付けになった。

私の脳裏には、一九四五年(昭和20年)7月4日未明の高知市空襲の光景が鮮明に甦る。この日、高知市街地の7割が灰燼に帰し、4万人が住居を失った。わが母校土佐中学校もコンクリート製のプールの残骸だけを残して瓦礫の山になってしまった。私は10キロ離れた伊野町にいて、被災はまぬかれたが、赤々と燃え上がる東の空を見て震えていた。翌朝徒歩で母校にたどり着いた。途中で、暑い夏の日の下、防空壕の水溜りに浮かぶ亡骸も見えた。

私のそのときの気持ちは、ただ怖かったと言つ一言に尽きる。15歳の少年、勇気を出して報復を叫ばなければならぬ立場の少国民である。周りから、「非国民」とか「意気地なし」とか言われるのをおそれて、自分の気持ちは言えなかったが、本当に怖かった。

その後、幸いにも平和な世の中に生き、生命の危険を感じたことはない。しかし、この日の経験は私のトラウマとして生涯残った。私には、ニューヨークで被災した人々、アフガンで空爆を受けている一般人の気持ちがわかる気がする。戦乱が一日も早く収束することを祈る気持ちでいっぱいである。

関東支部活動報告

事務局長 鶴和千秋(41回生)

二 一年9月11日、世界が大きく変わりました。

犠牲となられた6千人以上の方々の冥福をお祈りすると共に、未だ続くテロの恐怖と、アフガンでの戦火が一日も早く終息することを願ってやみません。

一 便遣いで難を逃れた久武たかさん(41回生、NY在住)、同僚の殉職を目の当たりにした同窓会副会長の森木房江さん(39回、ユナイテッド航空勤務)等の生々しい報告もありましたが、直接の被害に遭われた同窓生がいなかったのは、不幸中の幸いでした。

そんな殺伐とした日々の中、関東支部事務局に相次いでお目出たいニュースが飛び込んできました。

先ず9月、ルイヴィトンジャパンの社長秦郷次郎さん(31回)が、永年にわたるフランス文化と経済に対する貢献により、レジオン・ドヌール勲章を受章されました。この勲章は、フランスで最も権威あるもので、一八二二年ナポレ

オンにより創設されたものです。同期の31回生の方々による祝賀会の模様は別掲のとおりです。

そして秋も深まった11月、同窓会関東支部長宮地貫一さん(21回)が、勲二等旭日重光章を受章されました。同じ時、前同窓会長で、高知工科大学学長岡村甫さん(32回)が紫綬褒章を受章されました。お二人には、母校及び同窓会

に対しても一方ならぬご尽力をいただいております。同窓会としてもこの上ない慶びとするところであります。なおこれらのニュースは、既に関東支部ホームページに写真入りで掲載してあります。

手前ミノながら、支部会報「筆山」及び「関東支部ホームページ」は、編集長はじめ担当幹事の皆さんの献身的なボランティア活動により、豊富な内容とニュース性で、リアルタイムな情報を同窓生の皆さんに提供してあります。引き続きご支援いただきますと共に、ホットなニュース、身近な話題を事務局、編集部までお寄せ下さい。

平成14年行事予定
1月17日(木)筆山会新年会
1月31日(木)土佐高卒業式

母校だより

学校長 森田幸雄

11月に入り土佐路もすっかり秋の気配となりました。関東支部の皆様にはますますご健勝の御事と存じ心からお喜び申し上げます。

すでにご衆知のとおり秋の褒章受章者として前同窓会長の岡村甫先生が発令されました。対象の紫綬褒章は芸術の発展に優れた功績のあった人に贈られる章で、三三文化勲章と呼ばれています。先生の輝かしい業績から申して当然のことながらその栄誉を心から称えたいと存じます。ちなみに四国からは先生お一人の受章と聞いています。

次に3日付で発表された秋の叙勲で貴関東支部長宮地貫一先生が勲二等旭日重光章の栄に輝かれました。昭和27年支部省に入られてから一筋に

わが国教育の振興に携ってこられた業績が今回の榮譽に結実されたもので、学校として心からお喜び申し上げます。次第です。なお今秋の受章者はビッグネームの方は13名

で同時受章者には曾ての東大安田講堂攻防戦で名を馳せた佐々淳行氏も入っており、時の推移に感慨を深くしております。ところで高知新聞には当然県出身者として大きく紹介がなされましたが、全国紙

県内版には掲載されておりません。報道の仕組みは判りませんが残念でした。さて昨年の創立80周年記念事業の一環として、同窓会、振興会、学校の三者が協力して重要な二つのプロジェクトを立ち上げることが出来ました。

一つは本校の未来百年を視点に入れて、学校のあるべき姿を検討し提言を目指す「百年委員会」と、今一つは教員の研修と資質向上に向けて必要な提言を行う「TSL委員会」であります。そして

前者の委員長に岡村、後者には宮地の両本校理事さんを責任者として就任頂き、それぞれが既に数回に亘り真剣な討議を重ねて頂いております。今回の両委員長さんのご受賞

により一層の励みがつくものと大いに期待いたしております。

次に最近のテロ特措法成立を巡る自衛隊海外派遣問題等で中谷長官の堂々としてしかも真摯な国会答弁がよく報道されます。想像を絶するご心

労の連続とも存じますが、国家の名誉とまた絶対的安全確保の為に佐校スピリットで頑張ってください。さて現在までの学事活動ですが、先輩各位のご声援のもと順調に諸行事を消化中であり

ます。本年度は天候にも恵まれ、中高合同の大運動会を始め中2生の集団宿泊研修、全校遠足等総てを日程通り遂行することが出来ました。本年は学芸的行事である向陽祭が隔年休みに当たっており、11月8日のピアノ演奏と講演会(稲葉クララ先生)が終われば、学習、クラブ活動とも

学期の総仕上げに入ります。特に高3生諸君は正に受験戦争の真只中にあり、特訓や模試プレテスト、志望校検討会等真剣な最終取組みが続きます。因に本年のセンター試験出願者数は二九三名で過去最高の96%の出願率となりました。

これを吉兆として昨年を上ま
わる成果を目指しております
ので先輩諸兄弟の暖かい指
導と声援の程よろしくお願い
申し上げます。

本部だより

『校歌音唱』

幹事長 安岡範悦(39回生)
中学2年の夏、最終回、2
アウト、ランナー無し、セカ
ンドの交代選手として公式戦
初出場、次打者ショートゴロ
でゲームセット。

この輝かしい球歴を最後に
野球部を退部し、スタンドか
らの野球参加のため応援部に
入部しました。以来、入学・
卒業式、同窓会での校歌、甲
子園球場での校歌、若くして
旅立った同級生の葬儀での校
歌、等々さまざまな場面で土
佐高校歌との出会いはありま
した。

そんな私が最近ふと思うの
は土佐高校歌は4番まである
のに1番と3番しか歌わない。

どうしてだろうかと言うこと
です。13回生の義父の時代は
歌っていたようですが20回生
の先輩は歌った記憶が無いよ
うに言われる。時間の都合も
あり、1番3番にしたのだろ
うと思いつながらも歌詞を見つ
めていると手前勝手な思いが
膨らんでいきます。

「2番の歌詩、自由を唱う
不死の人は板垣退助翁のこと
と思われ、先輩の績を称えた
事が時局から相応しくなかつ
たのか、いや文武両道、人道
正義の理想を掲げる4番の歌
詞に何ら問題は無いのでは、
いや歌詞が男女共学に馴染ま
ないのでは・・・と手前勝手
は止まりません。ただ歌詞を
見ていると新世紀、激動、混
迷の今日にこそ合っているよ
うな気がします。理由はどう
であれ、せつかくの校歌です。
年に一度の同窓会では1番か
ら4番までは非歌いたいもの
です。奮えや土州健男児、も
ちろん女性もですが

(2番)
誠忠剛武並ひなく 霊夢に
入るか護国の士 達識教習類
(たぐ)いなく 自由を唱
(とな)う不死の人 嗚呼先
賢に績(いさお)あり 三才
秀で尊しや

(4番)

それ右分(ゆうぶん)と尚
武こそ 強者の競う栄冠ぞ
人道正義の理想こそ 王者の
担(にな)う使命なれ 嗚呼
吾輩(う)けん不朽の名 奮
(ふる)えや土州健男児
最後になりましたが、さる
8月4日に行われました同窓
会総会において、本部役員の
改選が行われ、次の方々が選
任されました。

- 会 長 池上 武雄(28回)
 - 副会長 溝淵 真清(32回)
 - 中橋 一郎(35回)
 - 森木 房恵(39回)
 - 横田 整二(40回)
 - 安岡 範悦(39回)
 - 永野 和宏(34回)
 - 岡田 容典(37回)
 - 西山 彰一(48回)
 - 宮地 貴嗣(61回)
 - 千頭 裕(58回)
 - 森木 将雄(32回)
 - 田中 章夫(40回)
- 来年の総会は、平成14年8
月3日(土)に高知新阪急ホ
テルで行います。

東海支部だより

『頑張れ、中谷元(51回生)
長官!!』

事務局長 南敦一(37回生)
TVを見るたびに心が痛み
ます。無字大食の小生には、
何がどうかは解りませんが、
鼻つたれの寒そうな子供がT
Vに映るたびに、「ウサマな
んとかのヒゲオヤジやフツシ
のハゲオヤジどもよ、ゲダゲ
ダ言わずに平和的に事を進め
ることは出来ぬのか。弱いモ
ノいじめなどは土佐流ではな
い。」何か腹立たしく思いま
す。

さて、こんな世相になると
も知らぬ春5月、東海支部総
会を開催しました。貴支部か
ら鶴和事務局長にお越しいた
だき感謝しております。前号
に掲載していただきました写
真の通り、真中にニコヤカに
鎮座下さいました。皆んなテ
カチカと元気にやっておりま
す。

それから9月の8日(土)
・9日(日)に名古屋で開か
れた『大東人会祭り』に小生
も参加しました。名古屋在住
の各県出身者が自慢の郷土芸
能を披露したり、名物を即売
したりのニギワイ。小生達は
「アイスクリン」をこじやんと
売り、また新聞にもその様
子が掲載され、名古屋の「土
佐高人」健在をアピールして



きました。でも、ホント疲れ
ました。そうそう、最近TVによく
出る中谷防衛庁長官、51回の
同窓生ということでご応援をし
ております。野党のイジワル
(特に大阪出身の某女性議員)
な質問にも、キレることなく
言いたいことの半分も言えず、
ジッと耐える姿、感動的であ
ります。「土佐高男児、土州
健児ここにあり」を全国に示
して欲しいと思います。頑張
れ、中谷元君!!

関西支部だより

幹事 吉岡 孝夫(37回生)
「光陰矢の如し」の言葉ど

うり、新世紀の最初の年も押し迫ってきた。例年の事ながらこの時期になると「関西支部新年総会」開催準備のため何となく慌しい中にも活気のある幹事会が召集される。開催日の決定、会場の決定、料理の内容、案内状の作成、母校・同窓会本部への連絡、等々に関して延々と喧喧譁譁の意見交換がされるのが常である。会員が参加し易い日に配慮し、女性にとって魅力ある会場を選択し、料理には故郷土佐の香りを入れよう、それには鯉のタタキ、てんぷら、蒲鉾が必要、案内状は一五枚ぐらいい用意したら、など女性軍がぐいぐいと幹事会をひっぱ



中澤先生を囲んで（平成13年総会）

る。熱気ある雰囲気幹事会会場の高知県大阪事務所の会議室を包む。永野支部長を中心に関西支部の秋季幹事会はこんな雰囲気で開催される。ところが今年10月の声を聞いても幹事会開催の声が掛からない。不思議に思っていたところ、山下先輩（32回）より「来年は3月に開催よ」という連絡を受ける。ということは今年の内にはあの熱気溢れる幹事会の召集は無いのかな、それともやはり一度は集まって、わいわい、がやがや、口角泡を飛ばしておく必要があるのではないかと気を揉んでいるところである。いずれにしろ楽しい集いはもうすぐである。

関西支部の来春の総会予定は以下の通りです。関東支部の皆さんの中で都合のつく方はちよつと覗いてみませんか？

開催日

平成14年3月23日（土）

18:00～20:30

開催場所

リッツカールトンホテル

（大阪 梅田）

開催日を3月にしたのは、

例年開催の1月では現役の方にとっては新年で多忙な時期

お年を召した方にとっては少々寒さが身にしみる時期であることから、皆さんが出席し易い時期、季節ということになりました。会場は今年好評であったリッツカールトンをもう一度との（女性軍の？）リクエストに応えました。プログラムの詳細については新年早々に幹事会で練ることになります。土佐の味覚、よさこい鳴子踊りなど一緒に楽しんでいただけると幸いです。

当節の社会現象として関西地区の地盤沈下の声をよく耳にしますが、ここ大阪では若い女性知事を迎えて、関西国際空港の活性化、ゲノム研究施設の建設などを含めた大阪彩都づくりなど、再生関西を目標した様々な活動が展開されています。我々関西支部も永野支部長の下に会員相互の連携と革新の気概をもって友好の輪を広げてまいりますので、関東支部の皆様には今後とも宜しくご指導ご鞭撻をお願い致します。

広島支部だより

会計幹事 中山和敏（40回生）

関東支部の皆様、こんにちは

は。広島支部の近況を御報告申し上げます。

10月27日（土）に、広島支部総会・懇親会を盛會裡に開催致しました。母校から浜田教頭先生、同窓会本部から森木副会長・安岡幹事長、関東支部から鶴和事務局長・西岡編集長・山中幹事、また、関西支部・東海支部・香川支部の代表の方々の御参加を頂きました。当支部の名譽会員・竹村照雄先輩（20回）も、もちろんご出席下さいました。午後4時から支部総会、4時30分から講演会、6時から懇親会といういつもの「広島パ



ターン、3セット」の日程でした。

講演会は、山本浩史先輩（26回、京都大学卒、福井大学名誉教授、高知大学講師）を講師としてお招きして、物理学の歴史を解かり易くお話しして頂きました。終了間際になつてお話しは盛り上がり、質問が次々と出され、また、参加者同士の論議も行われ、何か、大学のゼミのような感じの、かつ、楽しく和気藹々とした雰囲気の講演でした。懇親会は、浜田教頭先生から母校のご報告かたがた御挨拶を頂いた後、竹村先輩の乾杯の音頭で始まり、グループに分かれての自己紹介

・他已紹介も和やかに、かつ面白く楽しく行われました。

最近の広島支部では、40回生と41回がリードしておりましたが、今回は、39回生が大いに盛り上げて下さいました。森木副会長・安岡幹事長・福田(高野)・映子先輩・山崎伸夫先輩・浜口和也先輩の各位が完全にリードして下さいました。素晴らしいスピーチや校歌斉唱などなど。

二次会は、「梅太郎」チームとカラオケなしの「カラオケルーム」チームに別れて開催しました。

参加された大先輩諸氏や若いメンバーからも、「楽しくて、意義深い同窓会。来年も参加したい。」との感想を頂きました。

ご来賓の皆様には紙面をお借りして感謝申し上げます。来年は、10月26日(土)に開催の予定です。よろしくご支援下さいませ。

香川支部だより

事務局 寺田裕(62回生)

はじめまして。香川支部で事務局を担当させていただいております62回生の寺田と申

します。62回生というところから数えた方が早いと思っていました。当原稿を執筆するに当たり最新の香川支部の名簿を見ると、全部で約二三名の中で、以前よりだいぶ若い方も増えてきており、うれしさ半分驚き半分といったところです。それもそのはず、私が当地香川県高松市へ

仕事の関係で赴任してきたのが平成6年4月のことで、かれこれもう8年以上が経過しております。その頃は職場内で、土佐校出身者の懇親会に参加していたのですが、それが順次発展し、創立80周年等とも相まって、今や職場を超え、香川県在住の方で構成される香川支部となりました。

現在は、香川大学法学部の土田教授(32回生)を支部長とし、他支部と同様、年一回の総会並びに懇親会(本年度は7月7日に母校からの森本教頭をはじめ、同窓会本部から大久保副会長と岡内幹事長、関東支部から鶴和事務局長、東海支部から南事務局長、関西支部から山下幹事、広島支部から沖支部長などをお迎えし、盛大に開催されました。)と、その開催にあわせて会報

「かけはし」の発行、他支部の役員会出席等を主な活動としております。

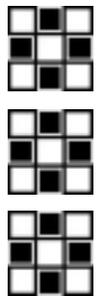


何分、他支部に比べ全体数が少ないこと、また事務局を設置し名簿を作成するなど、本格的な活動を開始してからの日が浅いため、まだまだ至らぬ点が多々あることは実感しておりますが、そこは面倒見が素晴らしい土佐校同士、各方面からご指導ご鞭撻をいただいております。

ここで簡単に香川の紹介をさせていただきます。皆さまもおそらく小学校の修学旅行等で、瀬戸内海に浮かぶ小豆島や源平の戦いで有名な屋島などに行かれたことはあると思います。中心地の高松は、よく四国の玄関口と言われ、これまで支店経済の街として発展してきました。また最近では、食生活への関心の高まりなどから、すっかり有名人になった名物讃岐うどんや、あまり

いいことではありませんが、ほぼ年中行事化しつつある水不足などで知られているようです。特に後者は、よくTVなどで高知の早明浦ダムが干上がった光景などが映し出されますが、実際同ダムから高知への給水はないものの、そのたびに高知との深いつながりを認識します。さらに本州とは3つのルートによる橋で、

また四国四県の県庁所在地は高速道路で結ばれ、四国域内はもとより、域外との交流が活発になっていくそうです。皆さまも、高知に寄られる際は、是非香川まで足を少し延ばしてください。ご都合が あえば、おいしい(と思われる)うどん屋を数軒ご案内させていただきます。



秋の叙勲

勲二等旭日重光章

宮地貫一 関東支部長(21回)

紫綬褒章

岡村甫前同窓会会長(32回)

宮地貫一同窓会関東支部長(21回)(写真左)が、永年にわたる教育行政における功績により、この秋、勲二等旭日重光章を受章されました。発令は11月3日。伝達式は、11月8日皇居にて行われ、ご夫婦で出席し、豊明殿にて拝謁されました。



同じくこの秋の褒章で、岡村甫前同窓会々長(32回)(写真右)が、学術研究上の顕著な功績により、紫綬褒章を受章されました。時節柄お二人共、祝賀等の行事はご遠慮されるそうですが、土佐高同窓会にとって大変お目出たい慶事です。





昭和25年8月。県中学野球第1回選手権大会優勝を記念して開かれた10日間の地蔵寺（現土佐町）合宿。前3列が土佐（29回生、30回生）、中央が大嶋校長、右に1人おいて富田先生、山本先生、左に1人おいて池上武雄現同窓会長。

で甘えん坊の一面を見せる事もありました。家ではほとんどお酒を飲む事は無く、外でもビールを少々程度でした。おすしが大好物でとりわけト

口のにぎりには目がありませんでした。晩年のある日、おすしをたべながら、「今度生まれてきて、君と結婚するよ」と言うものですから「やさしくしてくれないといやよ」と言うので静かに微笑みま

立仙浩一さん（10回生）を偲ぶ

鶴和千秋（41回生）



夏のある日、家内を連れ映画「ほたる」を観に行った。

6月19日、夫人とこの映画を観に出かけたまま不帰の人となった立仙浩一さんと同道を辿ってみたかった。

南の海に散った特攻隊員が生前世話になった知覧の特攻基地のそばにある食堂のおかみさんの元に、ホテルに姿を変えて帰ってくる。終戦後、高倉健扮する生き残った元特攻隊員が戦友の遺族を訪ね、遺品を手渡し、最後の様子を語り伝えるという話である。

立仙さんがどう思うかという思いでこの映画を観よとして、ストーリーとご自身の戦争体験と重ね合わせる時、どんな感想を漏らされたらと思うかと、余計に涙が溢れた。

平成8年、立仙さんが自費出版された「泣き虫、弱虫、怒り虫」を筆山21号に紹介したのがきっかけで、以後5年9回にわたり筆山紙上に同名のエッセイを連載していただいた。

若者の傍若無人振りに腹を立てるが、声をかけた時に示す意外と素直な表情にホッと胸をなで下ろす（「礼節は取り戻せるか」29号）。不躰な勧誘電話にあきれ返りながらも、世慣れない若者の懸命な姿にいつときの爽やかさを感じる（「ある日の勧誘電話」30号）。小説や映画の登場人物に自身の体験を切なく、そしてほのほのと重ね合わせる（「せつない運動靴」27号、「スシとソラ豆」28号）。泣き虫、弱虫、怒り虫氏は、最後まで年齢を感じさせぬパランス感覚を貫き通した。

24号の「携帯電話の功罪」では、高知へ出張した私との携帯電話によるやり取りを通して、そのマナーと効用とを対比して見せた。その中で私

のことを「友人」と表現してくれた。私にとっては「最年長の友人」から贈られたこの称号は、抽斗に収められた手書きの原稿と共に、かけがえない宝物として私のもとに残された。

立仙さんが彼岸に旅立つてはや半年の月日が経った。今ごろはあちらの世界で、「一枚の写真」（25号）に写っている愉快な同級生達と、晩年は視力が衰えたものの、一五〇人の生徒全員の声を聞き分けたという初代三根校長の目を（耳を）盗んで、楽しい酒盛りに興じておられることだろう。「心やさしいごっそう」立仙浩一さん、安らかに。

泣き虫 弱虫 怒り虫

第35回全国高校野球大会「松山商高対土佐高校決勝戦記念第2回交流会」

昭和28年夏、相まみえた松山商業高校との決勝戦は延長13回の末、2対3でその重門に下ったが、当時のメンバーと同窓生が集う計画が持ち上がり、その第1回目の交流会を45年を経た平成10年秋に敗者側の地、高知で開催した。次回は松山での開催を約し、丁度今年が同校創立百周年にあたるためこれに合わせ、去る11月3日に松山市のJALホテルで開催した。

執戦から約半世紀を経た両チームには残念ながら物故者

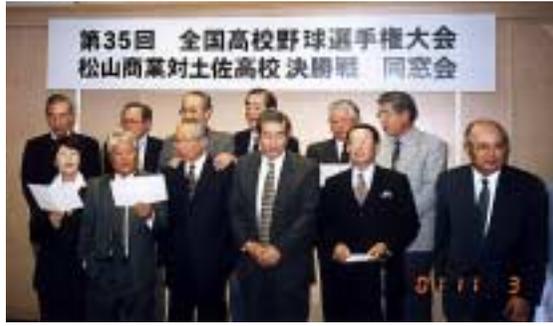
も体調不良の人もいるが、交流会には松山側から21名、土佐から12名が参加して旧交を温めると共に、楽しく賑やかに談笑の場が広がり、時間の経つのも忘れて往時の若い血を呼び起こし、熱気に包まれた。

交流会は双方代表挨拶に始まり、決勝戦の戦評朗読、第1回交流会の様相を収録したビデオ（RKC制作）放映、記念品交換、全員スピーチなどを経て、最後に校歌・エール交換で締めくくられた。この中で庄巻は何と言っても参加者全員による「ひと言」であったろう。それぞれのスピーチには、当時知り得なかつた秘話や後悔話、微妙な勝負のあやとエッセンスが随所に含まれていて、今更ながら唸らされたものである。それら全てを記述するスペースは無いが、驚かされるのはみんなが「その一瞬、一瞬」を昨日のこのように克明かつ鮮烈に覚えていてのことである。一つだけその裏話から紹介しておこう。

13回の裏、土佐最後の攻撃（反撃）のとき、松商・沖田

遊撃手が1球ごとに空谷投手のもとへ声をかけに行っていたものである。後日談だが、わが溝淵監督は「無死走者3塁のピンチを背負った空谷を執拗に励まし続けて彼を支えた沖田にやられた。あいつが陰の殊勲者だ！」と話していたものだが、今回、その当人の語ったところによると、事実は次のようなものだった。

彼は13回の直前、打者として右肘に死球を受けて右腕が完全にしびれてマヒしていたそうである。守備位置へ行く前に亀井監督に「ボールが投げられない。代えて欲しい」と訴えたそうだが、監督



土佐高校勢



松山商業勢。前列中央広川氏、そのうしろ小川氏、1人おいて空谷氏、沖田氏



は「もう打球は来ない。行け！」と。仕方なく守備についたが、しびれがとれない。かくなる上は少しでも時間をかせいで回復を待つ以外に無いと考え、かたがた投手を励ました。いわば一石二鳥の拳に出た、という訳である。そ

して、3塁打を放つて本塁をうかがう山本君をクギ付にしながら、飛んできた遊ゴロを、しびれの残る右手で驚つかみのままに1塁へ送球して薄氷のアウトをとるのである。確かにあの場面、1球ごとに投手の元へ駆け寄る沖田君の姿は、等しくみんなの目に焼き付いているのである。やられた！という感じである。こんな気力と知力、そしてたたかさが、後年の2度を含め夏を5回制した松山商高に底流する伝統資産の礎になっているのだらう。

当時ベンチに入っていた球友、西山君、福井君、岡林君ほか全員でこの集いに参集できたらどんなによかったらうにと思わざるを得ない一日であった。

【編集部註】

交流会に参加した決勝戦のメンバーは次の方々でした。
「松山商」 空谷投手(元中日)・小川2塁手(主将)・広川3塁手・沖田遊撃手ほか
「土佐高」 永野捕手(主将)・竹内2塁手・松田3塁手・弘光遊撃手・宮本左翼手・高島右翼手ほか

土佐中文化行事「クララ チエコ 稲葉 ピアノ・コンサート」



美しいピアノの旋律が土佐校の講堂にあふれた。ニューヨーク在住、欧米で活躍中のピアノニスト、クララ稲葉さんのコンサートが母校の開校記念日の11月8日、土佐中生の為に
 出席した中学生約七五名は、彼女の指先から響きわたる繊細なショパンのバラードや、柏木俊夫作曲の「奥の細道」によるバラフレーズ等にウツトリ。英語をまじえたクララさんとの対話にも積極的に応じる瞳は輝き、楽しく思い出深い時が流れた。



クララ稲葉さんのコンサートが母校の開校記念日の11月8日、土佐中生の為に
 出席した中学生約七五名は、彼女の指先から響きわたる繊細なショパンのバラードや、柏木俊夫作曲の「奥の細道」によるバラフレーズ等にウツトリ。英語をまじえたクララさんとの対話にも積極的に応じる瞳は輝き、楽しく思い出深い時が流れた。



クララさんは東京生まれ。4歳でピアノを始め5歳から海外生活。8歳でデビューリサイタル。ニューヨーク、ジュリアード音楽院、パリ、コンセルヴァトワール卒業。ニース、アスペン音楽祭等に参加。世界各国のコンクールで優勝。ピアノニストとして活躍する。



佐々木泰子(33回生)



方「音楽とふれあう喜びを子供達に与えたい」と4年前NPO「エンジェルズ・オブ・ミュージックハーモニー」を結成。NYで多彩な活動を続ける。

今回種々のリサイタルで帰国。我が母校でのリサイタルも「楽しかった。土佐中生はとても可愛い」とニッコリ。尚、私とクララさんとの接点は、7年前ニューヨークで活躍する白人女性をインタビューした時が最初で、以来、彼女の人生観に共鳴し、親友として土佐に来て貰って、本当によかったですと思っています。

季節のふるさとの味
土佐酒蔵

銀座7-12-4 友野本社ビルB1
 電3545-3855 銀座第一ホール通り

元土佐高野球部監督溝淵峯男氏が11月5日お亡くなりになりました。

溝淵さんは、昭和25年土佐高野球部監督に就任、厳しい練習で、たちまち母校を強豪校に育て上げ、昭和27年、28年には連続して春の甲子園に出場されました。昭和28年夏の第35回選手権大会決勝戦では、延長13回の熱戦の末、松山商業に敗れたものの、見事優勝を果たされました。この大会では、溝淵監督率いる母校高野球部に対し「優勝旗なき優勝校」と勝者に勝る称賞が与えられ、「ひたぶる全力疾走、純白の土佐」の名を全国の高野球ファンに強く印象付けてくれました。

普段の溝淵さんは、京町のスポーツ用品店のご主人「アラキのおんちゃん」として広く高知市民に親しまれ、高知高時代の昭和39年夏には、県勢初の全国優勝を成し遂げられました。享年88歳、ご冥福をお祈りします。

去年、28年甲子園組が集まり、故西山安彦君(2番でセンター)の墓参りに行った。帰り道、監督さんを入院中の病院に訪ねた時に、ベッドに横たわりながら「甲子園の入場式バア来てくれたよ、なつかしいよ」と喜んでくれた姿を今思い出し、残念でなりません。

監督の口癖は「グラウンドは戦場と思え。ウロウロしていると弾が当たるぞ、全力で行け。」この言葉が、今の土佐高野球部の全力疾走の原点となったと思います。雨が降っていても、どのような天候でも練習のない日は無く、猛練習に耐える精神力を鍛えることにより、今日の伝統ある土佐高野球の基礎を築いてくれました。

思えば苦しい時もありましたが、楽しい思い出の方が多く、私の生涯最大の恩人でもあります。

これからの高知県の高校野球が、学生野球らしく、ますます強くなることを、天国から見守っていて下さい。私もOBとして溝淵監督の教えを後輩に伝えていきたいと思っています。

監督さん、安らかにお休み下さい。心よりご冥福をお祈りいたします。

溝淵監督を偲ぶ
 山本 順三(29回)

萩野泰浩(31回)
31回生の秦郷次郎君(旧姓松崎郷次郎君)が、フランスで最も権威のあるレジオン・ドヌール勲章のシユバリエ章を叙勲しました。



去る9月27日、東京麻布のフランス大使館で駐日大使モリス・グールド・モンターニョ閣下からこの章を受けました。この勲章は、歴史は古く、あのナポレオンが一八二二年創

31

設し、厳肅な規定のもとフランス国家に、顕著な貢献のあった人(国内、国外を問わず)に授けられるものであり、それも少なくとも25年以上の継続が必要という、厳しいものです。

秦君は、昭和31年土佐高を卒業後、慶応義塾大学経済学部を経て、一九六四年ダートマス大学エイモス・タックでMBAを取得し、米国の大手会計事務所ピートマウィックに就職し4年のニューヨーク勤務の後東京事務所に移り、ここでルイ・ヴィトン ジャパン(株)の設立を手掛け、その手腕がフランス本社に買われ、社長に就任。以来24年売上を伸ばし続け、フランスに貢献すると共に、日本の女性のファッション感覚の向上と満足感の充実に尽くした結果だと思えます。ルイ・ヴィト



ンを令や、日本の、いや世界のトップブランドにした秦君の力は周囲の認めるところであります。
長年の努力と活躍が実を結び、この不況の中にあってもびくともしない彼の商売に対するコンテツは、マスコミからも大いに注目を集め、経済誌の特集になる勢いです。そして、LVMHの、ファッショングループ(ルイ・ヴィトン、ロエベ、セリーヌ、クリスチャン・ディオール、ジバンシー、フェンディー、ケ

ンゾー、ベルルッティ、ヴーヴ・グリコ、モンターニョ)10社の日本・ハワイ地区の最高経営責任者として、文字どおり世界中を駆け回るといふ、活動が続いています

福永彰夫(31回)

日本の皇室の勲章は、民間より政官を重視したものであり、それぞれの道で名をあげ功を成し遂げた後、ある程度年齢を重ねて授与されるものです。フランスのレジオン・ドヌール勲章は今までの実績や貢献度もさることながら、今後の活躍の期待にも重きを置いたものだそうです。秦君からも更に飛躍して行く和我々に誓いました。
数年前までは年商一億円を越える売上で驚いたことでしたが、一昨年八五億円、



昨年は一億円を越え、本年の目標は一二億円を目指しているそうです。日本の多くの企業は、パブルが弾けて業績不振が続いているなかで、パブルの後遺症などものともせず、ぐんぐん急成長していくことは、驚嘆に値することです。

この10月の吉日、昼は龍ヶ崎CCでゴルフに興じ、夜は東京會館で31回生の40数名が一同に会して、フランス産のワインで、秦君の今後の益々の活躍を期待して乾杯を致しました。

第5回土佐高ハイクの会

万座・草津温泉の旅 (草津白根山)

金澤由里 (55回生)



7月20日(金) 3連休初日の朝の新宿西口、乗客を待つ行楽バスだらけのその場所の一番目立つ所に、土佐高ハイクの会の旗を持った三宅ヨシロウ(38回)先輩を見つけた。さしあたり、引率の先生役か?私(55回)は生徒には、まあ見えないなあ、とか

なんとか思いながら、遅刻なのにジューズをしつかり買ってバスに向かう。バスの名札も、土佐高ハイクの会だ。夜旅立つ時は気がつかなかったが、今回はやけにツアーの名前が気になる。第2回初参加以来の初めての朝出発。酔っぱらいの声で眠れない前夜を過ごすこともない。天気は良く、野町啓(70回)と私がつるむと雨が降るといふジंकラスも崩れた。寝坊の私が休日の早起き、今年一番のさわやかな朝だった。早朝木更津から来た中村裕

子(37回)先輩夫婦を含め、無事新宿を出発したが、連休のため関越自動車道は大渋滞だった。朝から例のごとく飲みまくる先輩もいる。トイレ休憩およびお土産店で酒の補給などをして、横手山の昼食にありつけた時には、予定時間をとくに過ぎていた。昼食後ハイキングとなったが、今日のコースは脱落の許されないコースらしい。洒落たカフェでさぼることもできない。バスが待つ最終地点まで皆が辿りつけなければ、バスは宿に向けて出発できないのだ。

今回の幹事の中島宏(38回)先輩は、なんとこの日のために夫婦で下見をされたらしい。そこまでして計画された今回の全員一緒のコースを制覇するという企画は、なかなかよかつたと思う。1時間30分差が出ようが、全員完歩の達成感があった。私をとても羨ましがらせたのは、岡田四郎(38回)先輩夫婦である。夜の宴会で美人奥様が、「主人が途中こつそり手をつないでくれた。」と恥ずかし気もなく言われたのである。きゃー、お孫さんができた夫婦がそん

なにのろけるかなあ...。一方、永野博子(38回)先輩は、きついからもう二度と参加しないと言い、初めて参加のご主人の浩(34回)先輩は、来年も必ず妻を連れて参加するとおっしゃった。今回はなんだかいろいろな夫婦愛や兄弟愛を見せつけられた。昨年立山頂上まで御一緒した西内弘(38回)先輩だと思つて挨拶した、西内一(30回)先輩は、弟君を心配して監視にいらっしやつた。本当によく似ていらっしやる。また、トゥグループで到着した野村京生(29回)先輩は野町らとともに健脚ふりを披露されたし、一部ものたりないなあと強がり

を言う方もいた。意外にも最終ウォーカーは最年長の森健(23回)大先輩ではなかった。体の割に足が細い方、もしくは日頃運動不足の方がつらかつたようだ。夜は由緒正しそうな旅館に泊まった。乳白色の万座温泉につかつた。女湯に迷い込んだ男性客がいて、女性グループは風呂ですっかり盛り上がりましてしまった。(これに刺激されたか翌日草津温泉観光組は、

女湯ウォッチングをしたらしい)そして、広い宴会場での夕食。幹事をねぎらったり、お互いの近況を確かめたりして、楽しい夜は、心地よい疲労感とともに更けていった。翌日は、草津温泉観光組とハイキング組に分かれて行動した後、草津温泉につかり、ジンギスカンを食べた。それから、またまた渋滞の中、東京へ向かう。途中皆がお気に入りのお土産店に立ち寄つた。ハイキングコースで自宅の隣人に偶然会つた高田谷洋(38回)先輩は、あわてて奥様にみやげを買っているようだった。私の1年のうちで一番健康的で充実した週末はあつたという間に終わり、夜の新宿へ無事到着した。

今回は天候に恵まれたが、この会に参加して以来、ハイキングが好きになった私は、山岳部出身の野町のせい(おかげ?)で、豪雨の山にも耐えられるレイングッズ、日暮れ下山のための頭につけるランブ、雪のためのアイゼンまで揃えてしまった。このような会は世間一般的でない貴重なものだろうと思いつつ、いつも仲間に入れてくれる38回の先輩達に感謝している。

TONTON カラオケ・スナック
幸田 みどり (土佐女子出身)
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-46-7 第三平沢ビル7F
TEL 3205-3177 (西武新宿線北口前)

小料理 赤坂「土佐」
港区赤坂3-13-2 アダンビル 4階
電話 3586-9454
Map showing location near Aoyama Station and TBS Hall.

★出版レビュー★

- 大原 健士郎 (24 回生)
 - 「あるがままに老いる」 毎日新聞社 一四 円 2001.05
 - 「やる気のある健康医学」 講談社 七八 円 2001.07
 - 「働き盛りのこころ自殺」 創元社 一三三 円 2001.10
 - 『自信がつく・森田式「JJRN」の強化法』 三笠書房 五三三 円 2001.11
- 倉橋由美子 (29 回生)
 - 「あたりまえのこと」 朝日新聞社 一四 円 2001.11
- 田島征三 (34 回生)
 - 「オオカミのとまたち」 偕成社 一四 円 2001.10
- 野田正彰 (37 回生)
 - 「老いの復権・老いの姿からみた日本人」 三輪書店 一一 円 2001.10
- 塩田潮 (40 回生)
 - 「パブル興亡史・昭和経済恐慌からのメッセージ」 日本経済新聞社 八五七 円 2001.07
- 西村繁男 (40 回生)
 - 「ビジュアルビジュアル」 童心社 一三三 円 2001.10
 - 「きのぼりとかげへあくりもの」 朔北社 一六 円 2001.04
 - 黒鉄ヒロシ (41 回生)
 - 「マンガ日本の古典」 26 葉隠, 中央公論新社 五九 円 2001.05

- 「人間区人体町」 河出書房 一六 円 2001.11
- 坂東真砂子 (51 回生)
 - 「旅進への地」 十下 角川書店 各五七二 円 2001.06
 - 「ラ・ヴィタ・イタリアーナ」 集英社 四九五 円 2001.07
 - 「曼珠羅道」 文芸春秋社 一八五七 円 2001.11
 - 森岡浩 (55 回生)
 - 「まるわかり甲子園全記録・20 世紀春&夏の高校野球 完全版」 新潮社 九四 円 2001.07
 - 「異別全国高校野球史」 東京堂出版 一五 円 2001.07
 - 高遠裕子 (60 回生) 訳
 - 「グリーンズパン・アメリカ経済フリー△△FRB 講義」 日本経済新聞社 三三 円 2001.05
 - 「シャクルトン・史上最強のリーダー」 PHP 研究所 一五 円 2001.08

「JJRN」から雑誌に掲載されているものです。

- 島内 英祐 (30 回生)
 - 『巻頭グラビア「神々の島」を行く インドネシア・バリ島』 道路建設 637 1-8 2001
- 田島征三 (34 回生) 絵
 - 「私の新刊『ひこのこいネ』」 叔父と甥で作った絵本」 JJT 本 27(6) 2 2001
 - 大橋 章 (36 回生)
 - 「四天王寺創立時の仏像について」 仏教芸術 254 87-103 2001

- 野田正彰 (37 回生)
 - 「戦争と記憶・ユナム戦の罪責に向きあふ韓国」 世界 686 236-247 2001
 - 『特別対談野田正彰/S金井寿宏「働く幸福」とは「企業の論理を超えた価値」を見つかることにある迷えるリーダーたち」 「自己対話」 から始めよう」 フォンティム 39(1) 144-153 2001
 - 「対談 嘘の諸相と作家のイマジンナーシム」(特集「嘘」の方法論)」 I feel 11(2) 5-11 2001
 - 「元木昌彦のメモリアを考える旅(37)」 野田正彰(京都女子大学教授) 鋭く追及しないマスメディアが閉塞社会の補完物になっていく」 エルネオス 7(4) 94-97 2001
 - 塩田潮 (40 回生)
 - 『「Focus 政治」小泉圧勝が意味するもの。一般社員から始まった自民党の地殻変動』 週刊東洋経済 5674(p.86-87), 5680(p.120-121), 5688(p.136-137), 5695(p.124-125) 2001
 - 『「地方の時代」改革の旗手に財務省が教えを請う検証 三重革命・北川正恭 イズムは前進の』 現代 35(6) 125-137 2001
 - 「省庁再編 歳出削減なき大改革 情報公開制度で官僚にも変化のきざし(総力大ワイド特集 21 世紀の日 本を読み解く)」 現代 35(2) 60-63 2001
 - 「永田町対談(4)〜(9)」

- 財界の星々 33(1)(p.24-29), 33(2)(p.24-29), 33(3)(p.20-25), 33(4)(p.20-25), 33(5)(p.20-25), 33(6)(p.20-25) 2001
- 森崎 初男 (41 回生)
 - 「経済学・経済政策(コンサルタント養成セミナー 経営診断ポイント講座(2)〜(6))」 企業診断 48(1)(p.110-112), 48(2)(p.110-112), 48(3)(p.110-112), 48(4)(p.114-116), 48(5)(p.110-112) 2001
 - 宮岡 等 (49 回生)
 - 「目で見る精神分裂病ナーシングプログラム」 クリニカルスタディ 22(2) 8-18 2001
 - 坂東真砂子 (51 回生)
 - 「SPECIAL INTERVIEW」 キネマ旬報 1326 198-200 2001

お悔やみ申し上げます

- 立仙浩一 (10 回生) 平成 13 年 6 月 19 日
- 松田仁作 (14 回生) 平成 13 年 6 月 17 日
- 秦敬 (28 回生) 平成 13 年 11 月
- 河野孝雅 (47 回生) 平成 13 年 3 月 21 日
- 立仙浩一さん逝去
- 支部会報「筆山」に連載中の「泣き虫 弱虫 怒り虫」の筆者立仙浩一さん(10 回生)が去る 6 月 19 日急逝されました。一度も締め切りに遅れることなく足掛 6 年。6 編の心に染みるエッセイを綴って頂きました。連載は 30 号をもって終了させていただきます。1) 冥福をお祈り致します。